




立西巻き

[校長先生つぶやき、つぶやく（校長だより）]

尼崎市立立花西小学校
校長 笠井美香
2025. 12. 9 (火)
No.43

読書習慣と学力差

先週から始まった読書週間。学校では、子ども達が様々な分野の本に触れ、読書活動の幅を広げるとともに読書の質の向上を図ることをねらいとして、この読書週間を設けています。期間中は、図書委員会からの集会活動やスタンプラリー、ひまわりの会のみなさんによる「読み聞かせの会」等、本を楽しむ しかけがたくさん行われています。

読書がもたらす効果は知られたことであり、ご家庭においても、読書に力を入れていただきたいという思いは、立西巻き10(5月16日発行)において、お知らせしました。あれから、半年以上が過ぎました。学校では、朝読書の10分間を設けるなど、日常に本と親しむ時間を組み込んでいます。ご家庭では、いかがですか。テレビやゲーム、動画配信視聴の時間はしっかりとって、読書は・・・というご家庭も・・・ 我が子を動画配信やゲームに奪われないようにしたいですね。私自身も時折、スマホに自分を乗っ取られそうになります。我に返り、自身を律し・・・と引きしめています。



学力の土台は言語能力です。確かに、言語能力の豊かな子は、一般的に成績も優れている傾向にあります。小学校入学前までに形成される言語能力は、主として、おうちの方が使う言語の質によって、定まります。幼児期の言語能力の飛躍的な伸びには、驚くものがあります。小学校の入学前後からは、外見上は目立った変化を感じず、日一日と成長しているといった実感は減るかもしれません。ですが、言語能力は一日たりとも滞ることなく発達しています。脳内では、内言の操作といった見えない形で確実に発達しているのです。

学校では、教育課程の範囲で、教員を通して、子ども達への言語能力発達のための知的刺激を与えていますが、それも教科書から大きく外れることのない制約のもとでのことです。ということは、より広い世界、未知なるものや興味関心へのいざないは、読書を通してしか満たすものはないのではないかと思います。本には、お家の方や先生からは、日常教えてもらえない知識や深く知りたいことが詰まっています。周りにいる大人とは違う発想や論理が書かれているのです。自然の神秘や偉人の生きざま、歴史、世界が広がります。子どもの知的探求心を呼び覚まし読めば読むほど、様々な文章に接し、新しい言葉も覚えていきます。言語能力の伸びは、読書を通じてしかないのではないかと思います。普段、気にもとめなかったことを考えるきっかけとなったり、事象の本質を見抜くきっかけをつくったりと、本は私達に提示してくれます。本は、頭の中にイメージを描く能力を発達させ、想像力を思考力へとつなげます。想像力が衰えてあれば、思考することもできない。文章にある内容を具体的に場面や情景として思い起こし、再構成させる能力、つまり想像力が源となり創造力にもつながっていくことは間違いありません。

幼少期に、ありとあらゆる情景を思い浮かべることができるような本やお話を聴く経験値の少ない子は、どうしても本を好きにはなりにくいように思います。目で見えるテレビやゲーム、動画からは、イメージを思い浮かべる手間をかけずに済むので、想像力さえ養いにくいです。繰り返し書きますが、学力の土台は言語能力です。言語能力を育てる最も効果あることは、子どもを読書好きにすることかと考えます。そして、立花西小学校区は本当に恵まれています。北図書館が目にあるのです。テーマパークや学習塾に通わせる以前に、通わせるべき場所はこの北図書館という言語のお城かもしれません。豊かな人生をおくるための最も大切なツールとして、読書をおすすめします。